

令和7年度 佐世保特別支援学校 北松分校 学校評価の結果 及び 成果と課題

1 学校評価アンケートの実施期間

●令和7年11月28日(金)～12月12日(金) *2週間

👁️ : 考察

👉 : 改善策

2 回収率

- 教職員 94% (32 / 34名) * 昨年度 94%
- 保護者 78% (39 / 50世帯) * 昨年度 81%
- 児童生徒 87% (47 / 54名) * 昨年度 74%

👉 今年度の回収率・実施状況において、保護者の回答率が78%と若干昨年度を下回ったが、児童生徒の回答率が87%と回復した。昨年度同様に中学部および高等部生徒は90%を超える回答率であったが、小学部児童は回答困難なケースがあり、「子供たちの声」を学校運営に生かすための材料を集めるための更なる工夫が必要であると感じた。

3 アンケート結果及び考察

【改善策を検討する視点】

- 平均値が **2.5 ポイント**を下回った項目。
- 達成度が **75%**を下回った項目。(評価3もしくは4を付けた方の割合)
- **自由記述の意見**の中で、改善策の検討又は望ましいと判断された項目。

(1) 保護者アンケートから

○「実習先を生徒や保護者が納得してないまま決定することがあった。本人含め話し合いをし、納得の上で実習や活動を行って欲しい。」 **【教育活動に関する自由記述】**

👉 高等部の実習先選定については丁寧に時間をかけて行っているつもりであるが、十分に時間を取って確認することができなかったことが一因として考えられる。進路面談を計画的に実施し、より一層丁寧に話し合う必要があると考える。

👉【改善策】

- ・進路面談の予定を早めに示して、十分に確認する時間を確保する。
- ・生徒の特性や得手不得手等を考慮した実習先を複数箇所提示して生徒自ら選択できるようにする。
- ・進路研修会の充実を図るとともに、早めに周知するよう心掛ける。

○「年々生徒数が増えているのに教育環境整備が進んでいない。特性に応じた環境では無くなってきているように感じる。」(特に高等部) **【教育環境に関する自由記述】**

👉 児童生徒数が増加傾向にあり、今後数年間は同様の傾向が続くと思われる。小中学部においては複式学級によって教室数は確保できているが、子どもの実態によっては個別対応が必要な場合もあるため、多目的に使える部屋の確保が急務といえる。高等部においては校舎内のキャパシティの限界が近付いており、生徒の特性に応じた配慮が難しい状況である。

👉【改善策】

- ・現時点で校舎の増改築等は示されていないため、田平中学校及び北松農業高校に依頼して、教室等の借用を検討するようにしたい。その際、可能な限り単発ではなく継続して借用できるように交渉したい。
- ・現状の中で教材や指導体制上の工夫を凝らして、児童生徒の特性に応じた学習環境を整える。

○「朝早く交通機関に乗っている生徒もいるので、メールメイトでのお知らせをもう少し早めに送ってほしい。」

【開かれた学校に関する自由記述】

👉今年度は台風や降雪による休校措置はなかったが、予防的に登下校に関する注意喚起のメールを前日夕方までに何度か発出した。ご指摘いただいたケースは、6月に大雨で松浦鉄道が運転見合わせとなった際に、注意喚起メールを6時に、運転見合わせを把握した7時30分頃の再度メールを発出したことと思われる。

👉【改善策】

- ・メールメイトでの周知については、スピード感をもって行うよう徹底したい。
- ・交通機関の運行状況は、利用する生徒や保護者がいち早く把握することが可能なため、運転見合わせになったらどうすればよいのか家庭や学校で話し合うようにする。

○「ホームページがあまり更新されていないと思う。【開かれた学校に関する自由記述】

👉ホームページの更新はご指摘のとおり、今年度はほとんどできなかった。小学部は学級通信、中学部と高等部は学部通信を月1回程度発行しており、紙媒体での情報発信は行っているが、ホームページでの情報発信の充実を図る必要がある。

👉【改善策】

- ・各学部で発行している紙媒体をホームページに掲載して広く情報発信する。
- ・各行事等の役割分担にホームページ掲載係を位置付けるようにし、情報が新しいうちに発信するよう習慣づける。は引き続き行事ごとに発信する。
- ・メディア掲載の同意を得ることでホームページへの掲載を増やすことができるため、掲載同意の理解を得るようにする。難しい場合は個人が特定されないような工夫を施すようにする。

(2) 教職員アンケートから

項目⑤「学校は、文書や金銭等の管理や処理を適切に行っている。】【平均値 3.5→2.8、達成度 55%】

👉小中学部において金銭管理の面で不適切な事案があったため、厳しい評価となった。徴収金等を金庫に長期間留めていたり、職員なら誰もが制限なく金庫の開閉ができるような状態にあったことが問題であった。

👉【改善策】

- ・金庫内に現金用の小型金庫を設置して鍵は管理職が保管し、開閉時には必ず管理職が立ち会うようにする。
- ・そもそも現金を長期間保管せず、速やかに処理するよう徹底する。

○「体調不良等により休みの多い職員がいるとはお互い様なので仕方ないが、そこをカバーする職員への負担が大きいのと思う。」（複数意見）

【学校経営・組織運営に関する自由記述】

👉体調が整わず休むこと自体は仕方ないことであると皆理解していると思うが、その状態がいつまで続くのか分からないことがストレスになっていると思われる。これまでも管理職から現状について説明し、協力をお願いしてきたが、特定の職員に負担が集中する状況にある。

📌【改善策】

- ・休んでいる職員に対しては定期的な面談や電話連絡を取り、スムーズな復帰に向けて不安を取り除く。
- ・関係職員に対しては、管理職から現状について説明するとともに、指導体制等の工夫によって特定の職員に負担が集中しないように配慮する。

○「防災備蓄品の整備が遅いように感じる。」

【教育環境に関する自由記述】

☞防災備蓄品に関する学校の方針は折に触れて説明していたが、まだ周知が不十分であったと思われる。非常時持出袋の活用を含めて職員との共通理解を図る必要がある。また、購入物品としてポータブル電源や災害用トイレ、懐中電灯等を夏季休業中にリストアップしたが、購入手続きに手間取り納品が3学期にずれ込んだことから、現時点で具体的な提示できていない。

📌【改善策】

- ・防災等に関する職員研修を設定して、職員の共通理解を深めるようにする。
- ・引き続きどのような防災備蓄品が必要であるかを検討し、計画的に購入を進めていきたい。

⑧「若手教員の研究授業についてはもう少し丁寧に取り組むべきと感じる。指導案作成の時期や周りへの周知などぎりぎりに済ませて終わっている印象がある」

【専門性の向上に関する自由記述】

☞日々の校務に追われて経年研修の一環で取り組む研究授業への向き合い方が疎かになっているように感じる。適切な時期に研究授業を実施できるようにすべきであるが、行事等の隙間を狙って設定することが多く、十分に時間をかけて取り組んでいるかは疑問である。
また、行事等が重なってしまい授業の参観者や研究会への参加者が思うように集まらないことがある。貴重な研究の機会なので、適切な期日に設定すべきである。

📌【改善策】

- ・経年研修の対象者は年度初めに研究授業の実施時期を決定し、早めに準備に取り掛かるように促す。
また、日程変更が必要になった場合に備えて予備日を設定しておく。
- ・研究授業及び授業研究に一人でも多く参加できるよう周知を徹底する。
- ・対象者任せにならないよう、管理職と研究部に担当者を配置して、日程調整や指導案作成に助言を行なう。

(3) 総合評価、自由記述から

- ・ホームページで各種様式（就学奨励費、与薬依頼票等）がダウンロードできるようにしたり、各学部の行事の紹介をより頻繁に掲載するなど、ホームページの活用をもっと行ってもよいと思う。（教職員）
- ・小規模校のため、人的、物的資源や、学習環境の不足など日々難しいことにぶつかりますが、先生方がとても暖かく、協力しながら働くことができている。周囲の先生方のアイデアをお借りして自分の引き出しを増やしながらか働くことができ、やりがいを感じている。（教職員）
- ・高等部体育祭で生徒が北分 T シャツを着用しているのはとても良かった。また、放送で「分校さん」と言われていたが、地域に「北分」を知ってもらう為には、こういう時こそ「北分さん」と放送して頂きたい。「分校って北農の分校？」という声をあちこちで耳にした。（高等部保護者）※小中保護者からも同様の意見あり
- ・先生方とのコミュニケーションは必要だが、子供のことは関係の無い話が多いなど感じることもある。洋服の購入場所を聞かれたり、職業を推測して話すなど、いきすぎた質問ではないかと感じることがあり、是非改善いただきたい。（小学部保護者）
- ・支援学校を選んでよかったと、日々感じている。（中学部保護者）

4 総括（成果と課題）

- ① 保護者や児童生徒の学校評価アンケートはおおむね良い評価であったが、回答不可とする数が一定数見られた。特に ICT 機器の活用や防災備蓄品の状況などについて、学校の取り組みが十分に周知されていないことが考えられる。広報の方法を工夫する等して、学校の取り組みを周知しなければならないと考える。
- ② 教職員及び保護者の「皿開かれた学校」の各項目ではおおむね良い評価であったが、関連事項として PTA 活動の実施状況には未だ課題があると感じる。役員を中心に一部の保護者による活動が目立っており、どうすれば PTA 活動の活性化が図れるか考える必要がある。PTA 研修の在り方や、PTA と連動した災害時の対応など、次年度の課題として改善していきたい。
- ③ 教職員のアンケートで一部厳しい評価があった。「これくらいは大丈夫」「今までのやり方で問題ない」との慢心があったことは否めないといえる。具体的な改善案を示して職員へ周知していくことはもちろん、同じことの繰り返しにならないよう取り組んでいかなければならない。
また、日々の教育活動に真摯に取り組み、児童生徒と保護者にとっての「学びやすい学校づくり」、教職員にとっての「働きやすい・やりがいのある学校づくり」を目指していきたい。そのためにも、一層の教育活動等の充実化を図りながら、並行して教職員の「働き方改革」を進めていくことが重要である。業務のスリム化・縮減を図りながら、教職員が心身ともに健康で、働きがいのある職場づくりに向かうことで、活気があふれ、魅力ある学校づくりへとつなげていきたい。